

西伊豆健育会病院

医事課 山本孝至

功 績 本年度、医事課職員の入退職が激しい中、更にリーダー不在となるも、医事課全体で返戻・減点の抑制、未収金の削減に繋げ、課の適正運営も円滑になる様に、中心的に働きかけた功績。

推 薦 者 マネージングディレクター 大友 悠平

推 薦 理 由 山本はまさに縁の下の力持ちという存在です。決してリーダーとはならない立ち位置になっていますが、医事課の主任退職後の混乱を支え、自身の体調不安の中でも全体を支えた役割を果たした功績は大きいと考え理事長賞に推薦します。

内 容

本年度、医事課では定年退職や家族都合などやむを得ない理由による退職が相次ぎ、結果として新人未経験職員の割合が増加し、11名中4名（約40%）が未経験者となりました。さらに5月には管理・指標を取りまとめていた主任が退職し、医事課としては精度を落とさない適正請求をはじめ、継続的な業務遂行が大きな課題となりました。

山本は長年にわたり医事業務に携わってきたベテラン職員ですが、近年は持病の影響により常勤から非常勤へと雇用形態を変更したばかりで、本人・課ともに不安を抱えておりました。しかし主任退職に際し、自身が担える業務を精査した上で多くの業務を引き継ぐことを承諾し、当初は負担軽減を目的に契約した勤務日数・時間を見直し延長することで、医事課が円滑に機能するよう尽力しました。その結果、課内の業務は滞りなく運営され、各種指標の改善にも繋がりました。

もちろん、医事課の成果は一人ひとりの職員の努力に支えられたものですが、その根幹には適正かつ精度の高い事務処理が欠かせません。当院においては、KPIが肥大化しないよう定期的な働きかけが必須であり、山本はリーダーという役職ではないものの中心的に働きかけを行い、課内での協働を推進しました。こうした取り組みと成果は、理事長賞にふさわしいものと考え、ここに推薦いたします。